

SOCCER DIGEST



1_岩手王者として全国のピッチに立ち、闘志を燃やす遠野高イレブン 2_FW立花が相手の厳しいマークをかわしシュートを放つも、GKの好守に阻まれた 3_4_ディフェンスラインの選手らは、相手選手との激しい競り合いに体を張った 5_ゴール前で競り合うFW及川。ピッチを駆け回り必死にゴールを狙った 6_攻守にチームを支えた主将・MF太田がゴールを狙う 7_GK菊池が度重なるピンチに好セーブを見せた 8_応援団は最後までチームに声援を送り、声をからせた



INTERVIEW



前主将・MF
太田 竜雅 君
(3年、遠野中出身)

たくさんの応援に感謝

いつも応援し、支えてくれた皆さんに勝って恩返しができず悔しい。後輩たちには、7連覇の期待がかかるが、全国で勝ち上がる強いチームを作ってほしい。



現主将・FW
及川 魁士 君
(2年、遠野中出身)

全国制覇を目指す

全国では、相手の高いレベルを前に何もできなかった。新チームでは、全国制覇を目標にチーム内競争を高め、遠野高サッカー部をさらに強くする。



現副主将・DF
千葉 寿智 君
(2年、ヴェルディ岩手出身)

主将を支えチームを牽引

高いレベルを目の当たりにし、全国で勝つためには個人もチームもレベルアップが必要。主将を支え、目指すチームの実現に向け、チームを牽引する。

第97回全国高校サッカー選手権大会ダイジェスト 力出し切れず、初戦で涙

伝統と岩手代表の誇りを胸に、夢舞台に立った遠野高サッカー部。
くしくも2年連続で迎えた岡山県代表との初戦。
リベンジを期すも、全国の壁は越えられなかった。
6年連続28回目の挑戦を振り返る。

創

部70年、伝統と代表の誇りを胸に6年連続28回目の全国に挑んだ遠野。死力を尽くすも、無念のホイッスルに涙をのんだ。

第97回全国高校サッカー選手権大会は昨年12月30日から1月14日までの日程で行われ、埼玉スタジアム2002などで熱戦が繰り広げられた。遠野の初戦は31日、東京都の味の素フィールド西が丘で岡山代表の岡山学芸館と対戦。前回大会で敗れた同県代表にリベンジを期したが、流れを掴めず0対4で敗れた。相手のスピードとパワーは想像以上だった。前半、DF加瀬雅矢(3年)とDF及川幸毅(同)を中心にピンチをしのいでいたが、10分、コーナーキックから先制を許す。さらに11分、敵陣でボールを失うと、カウンターから追加点を奪われる苦しい展開。流れを変えようと、FW立花健斗(3年)と主将・MF太田竜雅(同)を中心に得点を狙うがゴールを割れず、2対0で前半を折り返した。

2点を追う後半、相手の猛攻に耐え、攻撃に転じる遠野は、GK菊池龍(3年)が好セーブを連発しチームを鼓舞。得点を予感させる時間帯もあったが、50、70分に警戒していたセットプレーから追加点を奪われ4対0。遠野の持ち味の堅守、パスサッカーを発揮できないまま、悔しさを残し、全国が閉じた。全国の壁は越えられなかった。それでも、最後の最後まで懸命にプレーする姿に伝統校の意地が見えた。平成の間、全国ベスト4を最高に活躍させた遠野。新たな時代には、どんな歴史が生まれるのか。遠野の挑戦は続く。

第1回戦試合結果
12月31日 味の素フィールド西が丘(東京)

遠野	0	0-2	4	岡山学芸館
シュート数				
前半	4本		7本	後半
後半	2本		7本	